

② 希望する業務内容について

1. 林業労働者の定着に向けて

- 今後、希望する業務内容としては、具体的にイメージできていないと思われる者が4割を占める一方、現在の仕事の段取りや安全作業を基本としながらも、事業体の経営への関与を高めていきたい者も一定程度存在する。ここ数年の間に多くの新規就業者が第一線で活躍することが期待されており、より高度な研修が課題となっている。
- 一方、先進的な林業事業体は、①路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システムによる生産性の向上、②森林所有者等に積極的に働きかけ、年間1万m³程度の素材生産をするなど安定的な事業量の確保、③給与の査定方法、評価基準等のオープン化、④教育の充実など、従業員のやる気を積極的に引き出す経営に取り組んでおり、高い能力に応じた所得の確保が図られている事例も見られる。

現在の業務内容と今後希望する業務内容

	現在の業務		今後の希望	
新規採用者を指導	325	14%	403	17%
仕事の段取りや作業手順を指示	825	36%	779	34%
班全体の安全作業を確認	834	36%	705	30%
事業費見積もりに立ち合う	130	6%	222	10%
事業体と単価の交渉	111	5%	181	8%
班員の賃金配分や格付けに関与	121	5%	134	6%
臨時的な労働者を探す	72	3%	96	4%
事業を確保する	205	9%	337	15%
該当なし・未記入	1,014	44%	993	43%
回答者数	2,313		2,313	

資料：林野庁業務資料

注：平成19年度に実施したアンケート調査で、複数回答。

先進的な事業体における所得分布等の状況

		A社 (福井県)		B社 (京都府)		C社 (兵庫県)		全産業 (正社員)	
所得 分布	300万円未満			3人	19%			915万人	27%
	300～400万円	3人	20%	3人	19%	4人	44%	650万人	19%
	400～500万円	4人	27%	9人	56%	3人	33%	508万人	15%
	500～600万円	4人	27%	1人	6%	1人	11%	358万人	10%
	600～700万円	3人	20%			1人	11%	258万人	8%
	700万円以上	1人	7%					540万人	16%
計		15人		16人		9人		3,432万人	
事業 量等	主伐	—		—		10,000m ³			
	生産性	—		—		12.0m ³ /人日			
	間伐	15,000m ³		9,402m ³		15,000m ³			
	生産性	6.0m ³ /人日		8.0m ³ /人日		10.0m ³ /人日			

資料：林野庁業務資料、総務省「就業構造基本調査(平成19年)」

注：先進的な事業体の事例はH20.11月の聞き取りによる。